

＜対策のポイント＞

畑作営農の大規模化に伴う労働力不足が顕在化する中、地域の基幹作物であるばれいしょやてん菜の作付面積が減少し、輪作体系が乱れることによる連作障害のリスクや頻発する気象災害リスクの拡大等、畑作産地が直面する様々な課題への対応力を強化し、持続可能な畑作産地を形成するため、**効率的作業体系の導入や作付体系の改善、気象災害や病害虫リスクの軽減等、畑作地域の生産性の向上に向けた取組を支援**します。

＜政策目標＞

- 需要のあるばれいしょ用途への10%以上の転換〔令和5年度まで〕
- ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の作付割合を50%以上に拡大〔令和5年度まで〕

＜事業の内容＞	＜事業イメージ＞
1. 畑作産地の生産性向上に向けた作業体系の構築 ○ ばれいしょ、てん菜の適期作業を推進するため、基幹作業の作業受託組織への外部化を支援します。 ○ ばれいしょ、てん菜生産等の省力化・効率化に向けた機械化体系導入に向けた取組を支援します。	畑作産地の課題 大規模畑作地帯では、3～4品目による輪作が営まれているが、大規模化に伴う労働力不足が顕在化する中、作付体系の乱れや病害虫、気象災害リスクが拡大。これら課題への対応力を強化することで生産性の向上を図り、持続可能な畑作産地を形成することが急務。
2. 持続可能な産地形成に向けた作付体系の構築 ○ 豆類の省力栽培技術や緑肥作物の導入等、輪作体系の適正化に向け、作付体系を改善するため必要となる作物の導入の取組を支援します。	畑作産地の生産性の向上等を図る以下の取組などを総合的に支援 1. 生産性向上に向けた作業体系の構築 ・ 適期作業推進のための基幹作業の作業受託組織への外部化 (例：貯蔵庫前の集中選別作業の外部委託によりばれいしょ収穫作業を効率化) 2. 持続可能な産地形成に向けた作付体系の構築 ・ 豆類の導入等による作付体系の改善 (例：大豆の狭畦栽培技術の導入) 3. 気象災害、病害虫リスク軽減技術等の導入 ・ 風害軽減技術等のてん菜の生産技術導入支援 (例：盛土による強風時の風速軽減)  ・ 湿害軽減対策の取組支援 (例：そばほ場の透排水性の改善) 
3. 気象災害、病害虫リスク軽減技術等の導入 ○ てん菜の風害・湿害やそばの湿害の軽減対策、ばれいしょの病害虫抵抗性品種の導入等を支援します。 ○ 病害虫抵抗性を有するばれいしょ新品種やなたねのダブルロー品種の普及の加速化に向けた産地での取組を支援します。 ○ 品質の高い種ばれいしょ（全粒植えに適する小粒種いも等）の生産技術の導入、り病率の低い種ばれいしょ供給に向けた取組を支援します。	
＜事業の流れ＞ 国 → 定額 1/2 以内 都道府県 → 定額 1/2 以内 農業者の組織する団体 等	関連事業：産地生産基盤パワーアップ事業 畑輪作確立枠（6億円） ○ 畑作地域の輪作体系の確立に向けた農業機械等の導入を支援します（別途、畑輪作地域の課題に沿った成果目標を設定）。